

国際医学技術専門学校 / 理学療法学科

自分の未来がここにある

ゆたかな人間性と確かな技術をあわせもつセラピストを目指そう！
その道のエキスパートの先生について学べます

運動学/川村和之(小児ケア)

小児ケアは、脳性まひ児をはじめとする、運動発達障害のある子供に対して、体に残っている潜在的な機能や隠れた能力を引き出すように働きかけ、発達援助を行います。

運動学/篠田光俊(スポーツケア)

スポーツケアは、ケガの救急処置から、スポーツ活動への復帰、再発防止等のケアを行います。

解剖学/太田慶一

解剖学は、理学療法士になるための勉強のなかで、もっとも重要で一番ボリュームのある科目で、骨、筋、神経など13項目に分かれています。

神経内科学/久保田競 倫理学/福吉勝男 脊髄損傷理学療法学/武田功 他
実績のある実力派の先生方がみなさんを待っています。

小児セラピストがたくさん必要です。

- ◎ 内閣府の発表では、平成25年度の **肢体不自由児・知的障がい児は446千人** です。
- ◎ 一方、平成27年度3月時点の、**日本理学療法士協会所属の理学療法士(PT)は約96千人** です。その内、**小児セラピストは1,172人、その割合は1.2%** にしかありません。
- ◎ このため **小児セラピスト一人当たりの小児患者数は、380人** にもなり、とても人手が足りません。
- ◎ ある症状については、**週3回×6週間=延18回のリハビリを行うと効果がある** と証明されていますが、残念ながらリハビリができるのは、**平均的には年6.8回しかできないという計算** になります。

学ぶなら「国際医学」がベスト！

国際医学の小児セラピスト育成の取組み

- ◎ ゼミ活動：運動学(含む小児ケア)卒業生は、10年間で48名、内、小児ケアに携わるPTは15名います。
- ◎ 小児ゼミ勉強会/年1回開催。・・・在校生の勉強の成果、卒業生の研究内容・成果を発表しています。
- ◎ 卒業生の多くが学校を訪ねてきます。学校は常に解放、施設・設備の利用が自由。先生に相談もできます。

国際医学卒業の小児セラピストの最近の業績

- ◎ <学会発表> 13期生：前沢智美 第21回 愛知県理学療法学会 一般口述発表
「重度な足部変形に対する理学療法に難渋したLarsen症候群の一症例」
- ◎ <学会発表> 14期生：畑中美百合 第29回東海北陸理学療法学会 一般口述発表
「重度な精神遅滞を伴うATR-X症候群の一症例」
- ◎ <学会発表> 16期生：古南美紀子 第29回東海北陸理学療法学会 一般口述発表
「脳性麻痺児に足継ぎ手 NEURO SWING を用いた短下肢装具による歩行検討」
第50回日本理学療法学会(東京) ポスター発表
「外反扁平に対する下肢装具 Junmp Start Leap Frog の効果」
- ◎ <論文著書> 13期生：岡田啓太、奥田純奈、添田仰、前沢智美、山本幸央
理学療法診療ガイドライン1版(脳性麻痺)ワーキングメンバー

国際医学技術専門学校 052-561-1166

JR名駅から徒歩10分、地下鉄東山線亀島駅から徒歩3分